



神楽坂にあるアクロージュ・ファニチャーの工房にて製作



「アクロージュ・ファニチャー」ではたくさんの樹種をストックしている。その中から音の良さそうな木を8つピックアップした



**家具工房 アクロージュ・ファニチャー**  
岸 邦明氏  
一級家具製作技能士  
技術専門学校の木工技術科を卒業。約20カ国をモーターホームで巡り、歴史ある国々の生活様式や文化財に触れ、どのような家具を製作していくべきかを学ぶ。新座市に工房を設立後現在は神楽坂に工房を移し、無垢のスピーカーをはじめ様々な木工製品の製作に携わっている。木工教室も開講中。

アクロージュ・ファニチャー  
場所：東京都新宿区築地町6番地 北星ビル2階  
営業日：月～土 9～12時、14時～18時、日・祝祭日 10時～12時、14時～18時  
☎03-6265-0241  
www.acroge-furniture.com



各4セット同じサイズ(90×90×22mm)でカットした、インシュレーターを聴く



気持ちいい響きができる樹種を探せ!

# 無垢材の聴き比べ

無垢材にこだわる木工房「アクロージュ・ファニチャー」とステレオのコラボ企画第2弾「無垢オーディオボード」商品化プロジェクトが立ち上がった。多種多様な無垢材を揃えるアクロージュ・ファニチャーの協力のもと、響きのいい8種の素材をインシュレーターとして使用。ゲストには無垢材製スピーカーを愛用する田中伊佐資氏、アクロージュ・ファニチャー代表岸氏をお迎えし、最も音のいい素材を聴きながら探る。

## 無垢材で最高のオーディオボードを商品化したい

編Y：オントモ・ヴィレッジで「イシダ・モデル」(※)というスピーカーを販売しているのですが、これはアクロージュ・ファニチャーの岸さんご協力のもと製作されています。最大の特徴は、エンクロージャに無垢材のブラック・ウォールナットを使用していることです。これまで無垢材で作られたスピーカーを聴いたことがなかったのですが、このスピーカーを聴いたときに、今までに聴いたことのない気持ちいい響きを体感して、無垢材の素晴らしさを知りました。そこでアクロージュさんと企画第2弾としてオーディオ

ボードを作ることになったのが、この企画の発端です。

編N：ただし樹種を何にするかはまだ決まっていません。最高のオーディオボードを求めて選考試聴会をこれからやりたいと思っています。岸さんには8種類の無垢インシュレーターを用意していただきました。その試験結果でボードの樹種を決定したいと思っています。田中：それは責任重大だなあ。でも無垢材をふんだんに使ったボードはありそうでないから、イシダ・モデル同様に注目を浴びる予感がありますね。そもそもアクロージュ・ファニチャーにはどういうきっかけで製作を依頼したんですか？

編Y：たまたま音楽之友社の近所に去年、おしゃれな木工製作所ができて、興味本位で覗いてみると店内には無垢の1枚板がずらりと並んでいました。これはタダモノじゃないぞということ、話を聞いたら、無垢にこだわったオーディオメーカーの家具を製作する工房だったんです。エンクロージャにもつながるなと思って、打合せを重ねて出来上がった商品がイシダ・モデルだったんです。

田中：なにか縁があったんですね。ところで工房は神楽坂に来る前はどちら

でやっていたんですか？

岸：埼玉です。10年間ほど主に椅子やテーブルなどの無垢の家具を作っていました。特注オーダーでタンノイのオートグラフを作ったこともあるんですよ。

田中：スピーカーなどオーディオのオーダーは結構あるんですか？

岸：過去数件ありましたが、オーディオを受け付けていると特に謳っているわけではないので少ないですね。

## 無垢材に対する憧れと、商品にする難しさ

田中：ご存知のように、木材を使用する弦楽器やピアノは高級になればなるほど無垢材を使用する割合が高くなるから、オーディオファンもこの素材に憧れている部分は多かれ少なかれあり

ますね。しかし工業製品として均一のクオリティで量産するのが難しいことや製造するのに時間と手間がかかるので、あまり製品になっていません。だから自作する人もいますし、無垢材は時間の経過とともに変化することがあるため、せつかく組み上げても崩壊しちゃうことだってあります。

どうしてもこの素材へ踏み込むには大きな壁がありますね。だから今回イシダ・モデルがヒットしたのもやっぱり無垢材に対する憧れがあるんでしょうね。岸：確かにホームセンターで売っているレベルの木材では乾燥が甘いので、時間が経つと反ってきたり、割れてきたりということがありますね。

田中：無垢で商品を作るにはプロの経験が必要なんですよ。無垢材を扱う難しさはどういう点でしょうか？  
岸：一番は、同じ樹種だとしても成長した環境が異なると1枚1枚の性質が違ってくるんですよ。木目も違えば色も違う。節があったり、割れがあったり、それぞれが別物です。また乾燥する過程でねじれや反りが出ます。それでスピーカーを作るとなると似たものを揃えなければなりません。その素材を探すのが非常に難しいですね。合板と違ってなんでもいいわけじゃないんです。



アクロージュ・ファニチャーとステレオのコラボ企画第1弾 石田善之氏監修「Ishida Model」。加工の難しい無垢のブラック・ウォールナットを採用したスピーカーの商品化が実現した

「インダ・モデル」のサイズでも左右を揃えるのは結構苦労しました。

田中：素材を調達するのも一苦労ですが、それを成形しないように維持・管理しておくことはかなり大変なんじゃないですか。

岸：私たちが今使っている木材は人工乾燥材というものに入れて、100%以上の含水率がある立木の状態に比べ9%の含水率まで乾燥させます。日本の風土で寝かせておけば、13%程度まで落ちると言われていますが、最近の家屋内は冷暖房によって乾燥が進むので、それくらいまで落とす必要がありません。しかし床暖房などで急激に乾燥が進むと反りやねじれが生じやすくなります。

田中：なるほど、だから市販スピーカーで無垢材は使用しづらいわけですね。岸：大量に作ることは不可能です。素材の安定供給も難しいです。その時によって木の価格も変動しますし。

田中：無垢材を使うということは、希少性だけでなく、時間も手間もかかっているのが高価にならざるを得ないわけだ。世の中にはたくさんオーディオボードが出ているけど、無垢製ボードはパツと思いつかない。製造が難しいだけでなく、やっぱり儲からないから

でしょう(笑)。反ったとかクレームが来る可能性もあるし(笑)。反りとか伸縮を抑える工法はあるんですか。

岸：無垢材はボードのサイズでも年間1mm程度伸び縮みます。もちろん反ったり、割れてくることもありますので、ボードとして使用する場合は、無垢材を切りっぱなしというわけにはいかず、伸縮を考慮しつつ無垢の板を何枚か組んで反りや割れを防がないけません。

編Y：難しいですね。切りっぱなしというわけにはいかないんですね。

岸：そのままだと水平を保てませんね。必ず反っちゃいます。

田中：だから今回、無垢材ボードが発売されるということは、画期的なことかもしれない。価格的にも含めてメーカーはチャレンジできなかったともいえるでしょう。

岸：ウチは個人工房みたいなものなので、色々な樹種を揃えることができず、大手では安定した樹種でないとい入れにくいかなと思います。

田中：これはボク個人の感覚ですが、残念ながら何故か高い材料は音がいいように思うんですが。

岸：たぶんそういう傾向はあると思いますね。

### ラワン無垢とラワン合板 試聴

岸：ラワン無垢は聴きやすくなった感じはしました。まろやかに変わったというか。でもパンチがないというか、自分の好きな方向ではないなあ。

岸：合板は強度を出すために、縦目と横目を交互に接着しているんで、それも大いに関係していると思います。直接叩いた時に全然違いますよね。無垢はカーンって音が伸びる。

田中：僕は無条件で無垢の方がいいですね。

田中：オーディオではあえて響かないものを使うという考えもあります。無垢材は固有の色が付きます。いいかと先人観をもっている人がいるような気もしますね。では次いつてみますか。どういう順番で聴いていきますようか？

田中：そうですね。広がりがでてきて、合板だともった感じがするんですよ。岸：なるほど、そういうことですか。音が出た瞬間に空気が全然違うのにはわかりました。

岸：ラワンより比重は重いですが、ブラックウォールナットとナラは割と近い存在です。一般に木の成分は樹種によつてそんなに変わらないんです。木の緻密さが重さに反映します。だから軽いラワンなんかは穴だらけです。

### 無垢材8種比較試聴

ラワン、ナラ、ブラックウォールナット無垢を連続で試聴

岸：うーん…。ナラが一番良かった感じしますね。ウォールナットは思ったよりイマイチかな。

田中：ボクも同じ意見です。編Y：そうですね。僕はウォールナットが一番良かった。一番枯れた音がしていて好きな雰囲気ですね。



無垢材を叩くと材質によって響きが全然違う。これがオーディオではどう作用するのか

田中：ところで岸さんはオーディオには興味はあるんですか？

岸：高校生の頃はステレオ誌を見ながら秋葉原に通ったりしましたが、今は全然ですね。そもそもCDプレーヤーの下に木を敷くだけで音が変わるのかましてや樹種によって音が変わるなんて正直信じられません。笑

### 無垢と合板の違いを聴く

田中：さて前置きが長くなりましたが、実際に聴いてみますか。

岸：まずは、一般的に手に入るラワン合板と、ラワンの無垢で比較させてください。

田中：それは面白いですね。ラワンといえは合板だけど、無垢材ってあるんだ。

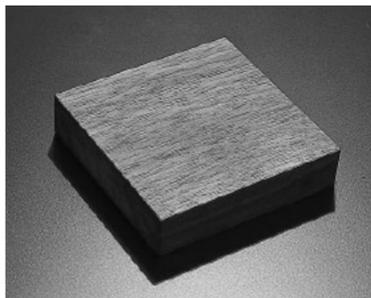
田中：それは非常によくわかる。「いぶし銀の世界ですね。泥臭い体臭が出てきて、流れてスモーク」なんて口走りたいのはやまやまだけど(笑)、今回はボードの素材決定でしょ。一般のオーディオファン視線を意識しないと。ウォールナットは安定感があつて落ち着いているけど、渋すぎる。ナラはパーンと響きがキレイに乗ってハイモニーが出ている。だから聴いていて気持ちいい。しかしやりすぎるとうるさくなるような気配もある。

編Y：そうですね。ナラは全体的に太い肉厚な音がしましたね。

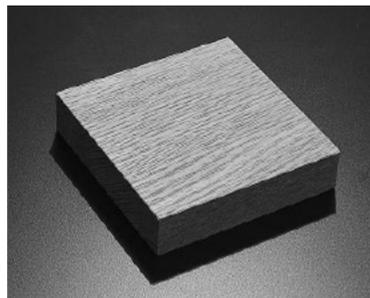
岸：なるほど、そういうことなんです。田中：ラワンとウォールナットは同じ傾向の音だね。ウォールナットの方はキャラがはっきり立っている。

編N：ナラはぎりぎり暴れる手前の音でちょっとうるさいかな。でラワンはこじんまりしていて、ウォールナットはカサつく感じで、いい感じにアダルトな音ですね。

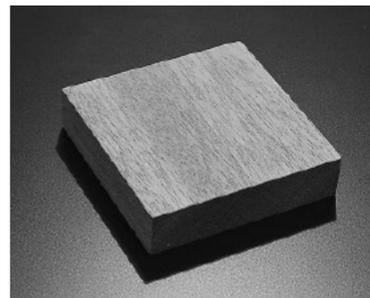
田中：いったいどれがいいんだ？(笑) 岸：次はブラックウォールナット系でもっと重いサベリとアメリカンチェリーをお願ひします。比重が増えるのもっと重い低音が出るのかな。



ブラックウォールナット  
クルミ科。産地：北米、ヨーロッパ。木理：精。比重：0.59。径1m。散孔材ない半環孔材。軽いわりに強度と粘りがある。



ナラ 別称：ミズナラ、オーク  
ブナ科。産地：日本、中国、朝鮮。木理：粗。比重：0.68。径1.5m。年輪の明瞭な環孔材。柔らかく刃物の通りがよく加工は容易。



ラワン  
フタバガキ科。産地：フィリピン、東南アジア。木理：粗。比重：0.45~0.7。径1m。散孔材。肌目は荒く、木理が交錯して導管が大きい。



試聴はSACDプレーヤー、ソニーSCD-555ESのシャーシ底板に直接インシュレーターを敷いて行なった



ラワン合板(写真右)とラワン無垢(左)で聴き比べる



無垢板は年間1mm程度伸び縮みするので、無垢板を5枚にわけて組むことで反りや割れを防ぐ。中心の板は伸縮の遊びを考慮して接着せずに固定。表面は植物系のオイル仕上げ

今までの試聴はなんだったんだ(笑)。これ最初から出来レースなんですか。なんでメイプルの試作品があるの？

岸…これは偶然なんです。ボード試作品はラワン合板とその対極に位置するメイプルを作ってみました。まずはこの2種で違いが出るか編集部に試してもらったんですよ。まだ半信半疑だったので笑。そしたら明らかに違うというところで、じゃあ色々な樹種をやってみよう、ということになったんです。田中…読者の皆さん、だそうです。ではラワン合板とメイプルのボードの聴き比べいってみましょう。



ラワン合板のボード



ハードメイプル無垢材による試作品ボード

**ラワン合板とメイプルのボードの聴き比べ**

田中…ボードだとインシュレーターと比較じゃないくらい変化するね。ラワン合板だとぼつと聴きの迫力あるんだけど、ざらざらして粒子が粗い。これだったらない方がいいんじゃないかって思いましたね。それに対してハードメイプルは音が緻密で一つ一つキレイ。いかにもグレードがあがったって感じだよ。やっぱりボードだと変化量が凄いな。

岸…こうなるんだったらブラックウォールナットのボードも対極にあって面白い気がしますけど。

編Y…確かに面白い。個人的には欲しいですね。

田中…2種欲しい。両方作るってのはどうなんですか？これは一番後ろで聴いているオントモ・ヴィレッジ課長にお訊きします。

課長…いや、それだと在庫のリスクがありますね。

岸…作る手間は変わらないんで、あとは材料費の違いだけです。

編Y…いいですね。やりましょうよ。課長…うーんちょっと検討します。

田中…まああなたにせよ、お手頃価格でお願いします。いやあ、それにしても非常に興味深い試聴会でした。ありがとうございました。

## アクロージュ・ファニチャー×Stereo コラボ企画 第2弾 オントモ・ヴィレッジで2種類の 無垢オーディオボード発売決定!

本対談で聴いた、ハードメイプルとブラックウォールナットの無垢でできたオーディオボードの商品化が決定。数量限定予約受付中!  
商品の詳細、注文はウェブサイト「オントモ・ヴィレッジ」まで。

※受注生産となりますので注文をいただいてからお時間をいただく場合があります。

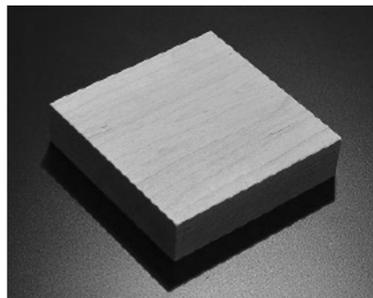
ハードメイプル 48,000円(税抜)送料無料

ブラックウォールナット  
50,000円(税抜)送料無料

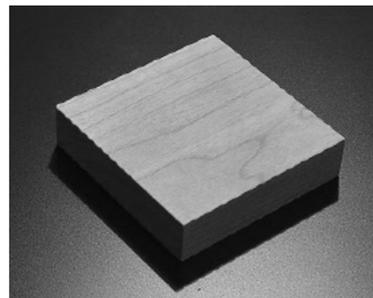


〈仕様〉サイズ: W487mm×D440mm  
板厚: 22mm

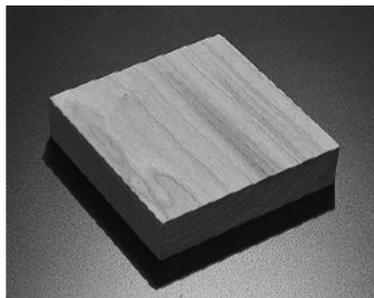
webサイト「オントモ・ヴィレッジ」  
<http://www.ontomovillage.jp>  
[village-shop@ongakunotomo.co.jp](mailto:village-shop@ongakunotomo.co.jp)  
☎03-3235-2090



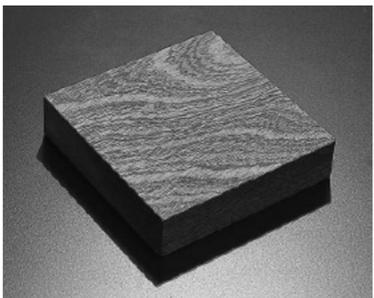
ハードメイプル  
カエデ科。産地:北米、ヨーロッパ。木理:精。比重:0.55~0.70。径1m。散孔材。材質は硬く、粘りがあり、衝撃に強い。



ヤマザクラ  
バラ科。産地:日本。木理:精。比重:0.60。径1m。散孔材。材の比重はやや重厚だが、材質は素直で反りも少なく、狂わない。粘りがあって強い。



アメリカンチェリー 別称:ブラックチェリー  
バラ科。産地:北米。木理:精。比重:0.55。径1m。散孔材のな環孔材。柔らかく肌目はやや緻密で、光沢もある。



サベリ  
センダン科。産地:中央アフリカ。木理:やや粗。比重:0.68。径2.5m。樹種はマホガニーに近く、材質も似ている。軽くて粘りがある。

ブラックウォールナット、サベリ、アメリカンチェリーを連続で試聴

田中…サベリとウォールナットは仲間だね。でもサベリは音が詰まりになった感じはしたけどね。まあ似たような感じかな。

編Y…サベリの方がハイファイ感が増した感じがしましたね。

岸…自分はウォールナットの方が好きですね。

田中…僕もそうですね。サベリは抑圧感ある感じがしたな。この中ではチェリーが一番良かった気がしますよ。明快できつもなく気持ちいいですね。

岸さんチェリーはどうですか？

岸…ナラほどのインパクトはないですね。ナラは色々な音がダイレクトにきてわかりやすかった気がします。

田中…チェリーはマニアックな音だね。ナラは誰が聴いても良くなったと思えるような敷いた甲斐がある音ですね。

岸…次は今のところ一番いいと思うナラと残りの2種で比較させてください。

**ナラ、桜、ハードメイプルの順で試聴**

田中…やっぱりナラは必殺技を持っていますね。

岸…ちょっと独特ですね。

田中…瞬間的に良く感じるけど、ずっとこれで聴いていると疲れてくる気がする。

編Y…迫力はあるけど1本調子な感じがしたな。桜は特徴をつかみにくいなとも言えない感じですね。

田中…そうですね。これもマニアックな音だよ。ハードメイプルは派手な音のイメージがあつたけど、今回ここで聴いたらそうでもない。意外だった。音が広がって総合的なバランスが高い感じがしましたね。

岸…メイプルが中では個性が一番はっきりしている。クリアでよかつたかな。ギターやボーカルがキレイに出てきた。ナラは音がパンパン響いていて、その対極にあるのがブラックウォールナットというイメージでしたね。これは好みというか聴く曲によるのかな。この3つは個性が立ってる。

田中…じゃ、好評のナラ、ウォールナット、ハードメイプルで、違うソフトで聴いてみますか？ピアノトリオをバックに歌うジャズ・ボーカルです。

**ナラ、ブラックウォールナット、ハードメイプルの順で試聴**

田中…ナラはさっきのソフトだと明快

でクリアな感じが好印象だったんだけど、このソフトでは逆に軽い感じがした。こういうジャズはもっと黒っぽくてスリットと来てほしいんだけど、明るくなっちゃって浮足立った感じがした。僕の中では銅賞って感じですね。逆にウォールナットの方は、ゴリゴリっと厚くてきたよね。ハードメイプルはソフトを選ばず高水準を維持している感じ。このソフトでは一番ウォールナットが良かったけど、製品として誰でも安心して使えることを考えるとハードメイプルがいいのかな。

編Y…メイプルは音が明るいですよ。余韻なんかも増えて情報量が増えたように聴こえますね。

田中…メイプルは一般的なオーディオファイルが好むいい方向だよ。

岸…ハードメイプルでボーカルを聴いた時に高音がキレイに聴こえてゾワゾワと鳥肌が立つ感じがしましたね。個人的には音の通りがキレイにスーッと抜ける感じが好きです。

編Y…音もスピーディーですね。弦の弾いている感じもよく伝わってきた。やっぱりメイプルっていいんですね。

岸…じゃここで、試作品のメイプルのボードを聴いてみましょうか？

田中…えっ、もうボードができてる。